2021 11.22 vol.980

JA全農ウィークリー WEEKLY

4-5面

JAアクセラレーター第3期成果発表会

スタートアップ企業とJAグループが食と農、くらしの未来を共創（経営企画部）

2面

高知県、JA高知県と連携協定を締結（耕種総合対策部）

地域農業・施設園芸の振興を図る（2面）

米国・ニュージャージー州の日系スーパーで鶏卵を販売（2面）

成果を発表した9社代表と農林中金・奥理事長、全農・野口理事長（4-5面）

2 米国の日系スーパーで鶏卵販売 日本産鶏卵の輸出拡大目指す（JA 全農インターナショナル）

家畜防疫動画をJACC ネットに掲載（畜産生産部）

3 「いわて純情米」中国へ初輸出 記念セレモニー開催（岩手県本部）

県内小学校で稲作の出前授業を実施（千葉県本部）

「出向く推進スキルアップ研修会」実施（耕種資材部）

6 JAズームイン（埼玉：JA越谷市）

7 JAズームイン（富山：JA山田村）

8 「梅酒の梅ドライフルーツ」新発売（営業開発部）

全農直営飲食店舗で福岡県産「富有柿」フェア開催（福岡県本部・フードマーケット事業部）

JAタウンショップ紹介 いわて純情館（岩手県）

Web限定

「サキホコレ」先行販売イベント開催（秋田県本部）

「やまゆりポーク」小学校で食育授業（神奈川県本部）

「発酵そみファ」とYouTuberがコラボ（㈱全農ビジネスサポート）

Web版JA全農ウィークリーはこちらから ▶▶▶▶▶▶▶

https://www.zennoh-weekly.jp/

『JA全農トピックス』のツイッターはこちらから

News!

高知県、ＪＡ高知県と連携協定を締結

地域農業・施設園芸の振興目指す

耕種総合対策部

全農は10月27日、高知県、ＪＡ高知県と、地域農業・施設園芸の振興を図ることを目的に、連携協定を締結しました。

高度施設園芸推進室は２０１４年から大規模多収栽培技術の確立・普及と、人材育成を目的とした「ゆめファーム全農プロジェクト」に取り組んでいます。高知県では、環境制御技術に人工知能（ＡＩ）などの先端技術を融合させた新しい施設園芸システムの普及推進を図っています。ＪＡ高知県では、技術・経営指導、新品種の導入提案など、農業者への直接的なサポート活動を行い、地域との連携や新規就農者の獲得にも取り組んでいます。

３者が連携協定を締結し、それぞれが培ってきた省力化・高収量化を実現する新しい栽培技術の開発・実証・普及と、次世代を担う後継者の確保・育成への取り組みを通じて、地域農業・施設園芸の振興を図ります。

左から秦泉寺ＪＡ高知県代表理事組合長、濵田高知県知事、安田ＪＡ全農代表理事専務

News!

米国・ニュージャージー州の日系スーパーで鶏卵を販売

日本産鶏卵の輸出拡大目指す

JA 全農インターナショナル

ＪＡ全農インターナショナルは10月21日、空輸便で鶏卵を輸出し、ミツワ・マーケットプレイスのニュージャージー店にて、10月28日から販売しました。

米国向けの鶏卵輸出は、農林水産省による畜産物輸出コンソーシアム推進対策事業の一環として、共同事業体である「ぐんまたまごコンソーシアム（※）」を設立して取り組んでいます。２０２０年11月にテスト輸出により課題を整理し、今回は現地ニーズに基づき６個入りパックで販売しました。

売り場は店内入り口に大きく展開し、商品を購入された方からは「すき焼きにしておいしく食べました」との声もいただきました。今後も継続して日本産の鶏卵輸出の拡大を目指します。

日本産鶏卵のPR資材

店舗での売場の様子

※鶏卵生産者「㈱トマルのグループ会社２社」、輸出事業者「JA全農インターナショナル㈱」、物流・事務局「JA全農たまご㈱」による組成。

News!

家畜防疫動画をJACCネットに掲載

実施事例を五つの場面に分けて紹介

畜産部

畜産生産部は、家畜伝染病を「持ち込まない」「拡げない」「持ち出さない」ために、「家畜防疫の重要性と防疫の基本的な考え方」「家畜防疫対策の実施事例」をまとめた動画および手引書を制作し、ＪＡＣＣネットに掲載しています。

防疫は、全ての畜産関係者が一体となって取り組むことが重要です。当動画と手引書では、家畜防疫の重要性を分かりやすく説明した上で、家畜防疫対策の実施事例を「事務所等での日常対策」「畜産農家を訪問する際」「農場立ち入り時」「家畜の移動および出荷時」「農場・生産者の取り組みへの理解と支援」の五つの場面に分けて紹介しています。データは全農畜産総合情報サイト「ＪＡＣＣネット」の特集ページに掲載していますので、防疫研修会などでぜひご活用ください。

動画

JACCネットはこちら

News!

「いわて純情米」中国へ初輸出　記念セレモニー開催

中国・大連日本人学校に岩手県産ひとめぼれを贈呈

岩手県本部

岩手県本部は11月2日、「いわて純情米」が中国に初めて輸出されたことを記念し、「いわて農林水産物国際流通促進協議会」が中国・大連市の日本人学校で開催したセレモニーにリモート出席しました。

セレモニーでは岩手県大連経済事務所の禹瑾（ユウジン）所長が、日本人学校の平良校長に県産ひとめぼれ2kgを手渡しました。日本側から髙橋司県本部長（同協議会副会長）と共にリモート出席した佐藤隆浩会長は「巨大な人口を抱える中国への輸出の実現は大変喜ばしい。児童の皆さまにも、岩手のお米を食べていただき、おいしさを広く発信してほしい」とあいさつしました。

「いわて純情米」の中国輸出は9月から始まり、10月末までに計8㌧、12月上旬にはさらに4㌧を輸出する計画です。米の国内消費が落ち込む中、巨大市場での販路拡大が期待されます。

リモートで開催された中国初輸出記念セレモニー（岩手県庁）

News!

県内小学校で稲作の出前授業を実施

千葉県農業の特徴や田んぼの役割、農業の魅力を解説

千葉県本部

千葉県本部は11月4日、浦安市立舞浜小学校で5年生92人へ出前授業を行いました。

同校の5年生は5月からバケツ稲を大切に育てていました。しかし、収穫直前に刈り取りができない状況となり、同校から相談を受け、県内生産者に依頼して稲穂を提供しました。児童はその稲穂を乾燥させ、脱穀作業の体験をしました。

この出来事をきっかけに出前授業を提案し、今回の授業が実現しました。千葉県農業の特徴や田んぼの役割、農業の魅力などについて解説しました。児童は県内生産者へのインタビュー動画も視聴し、自ら脱穀したお米を試食しました。試食後すぐの給食でしたが、ご飯をおかわりする姿が見られました。同校の梨本昭子校長は「農業に触れる機会がない児童にとって貴重な時間になったと思います」と話されました。

JAグループ千葉から新米の「粒すけ」2kgをプレゼント

News!

「出向く推進スキルアップ研修会」実施

推進事例の共有と商談力向上で「出向く取り組み」強化

耕種資材部

東北営農資材事業所は10月21日、九州営農資材事業所と連携し、県域職員の「出向く推進スキルアップ研修会」をオンライン形式で実施しました。

東北営農資材事業所は、「出向く取り組み」の強化に向けて、各県の事例共有や推進に必要な知識、商談の場の作り方を習得することにより、JAや担い手との信頼関係を構築した上で業務を遂行できる人材の育成を目的に今回の研修会を実施しました。

研修では東北、九州の各県をウェブ会議システムでつなぎ、県域職員が取り組んでいる推進事例の共有や、㈱コンパス鈴木講師による「出向く推進に向けての商談力向上」に関する講義を受講し、グループ討議などを通して出向く取り組みについて理解を深めました。

オンライン形式による研修会

した。今後はJAグループの保有する多くの施設などをドローン物流の起点となる「ドローンデポ」として活用するなどの連携を目指したいと発表しました。

KAERU㈱（カエル）は、高齢者の記憶力や認知機能を補うサポートアプリとアシスタント機能付きのプリペイドカード「KAERU」を開発し、誰もが安心して買い物を楽しめる社会の実現を目指しています。プログラム期間中はJAはだの（神奈川県）でのセミナーを実施しました。今後も高齢化の課題に向き合うパートナーとして、組合員の約半数が高齢者であるJAグループと連携していきたいと発表しました。

EFポリマー㈱は、果物の皮などの生ごみを原料に、干ばつや土壌劣化の問題を解決する100%オーガニックのポリマーを開発しています。期間中は北海道から沖縄まで、異なる環境の6都県・約10カ所で実証実験を実施し、ポリマーにより土壌中の肥料成分を保持できることを確認しました。また農業だけでなく、生理用品や保冷剤などの工業製品への使用にもつながりました。

㈱MISOVATIONは、日本の伝統的発酵食品であるみそ汁に栄養学の考え方を掛け合わせた完全食みそ汁を開発しています。㈱全農ビジネスサポートが開発した塩分ゼロの大豆醗酵食品「発酵そみファ」と日本各地のみそや野菜を使用し、地域性があり、ブラッシュアップした完全食みそ汁「MISOVATION」の販売を開始しました。原料として使用している冷凍野菜の国産化率の向上にもチャレンジしていきたいと発表しました。

エンゲート㈱は、アスリートとファンを直接つなぐギフティングSNSの開発・運営を行っています。地域の特産品による「応援」をテーマにした実証実験を行い、横浜マリノスチアリーディングチームにより、神奈川県本部の「ぎゅっと、神奈川みかん」ジュースのPRが実現しました。JAグループ各組織がスポンサーをしているチームとエンゲートに加入しているチームの多くに重なりがあり、その他複数県のJAグループ組織との連携・特産品のPRに向けて検討中です。

東京ロボティクス㈱は、力制御技術を生かした人間共存ロボットの開発を行っています。選果場などの現場における課題開発に向け、グリッパ、移動台車、昇降機を組み合わせた「モバイルグリッパ」を開発し、JAさがみ（神奈川県）のトマト選果場で重労働負荷軽減に向けた検証を実施しました。今後は農業現場だけでなく、工場や倉庫などへの展開も目指していきたいと発表しました。

㈱事業革新パートナーズは、植物や樹木の20%を占めるヘミセルロースを原料とした100%植物由来の生分解性樹脂「HEMIX」の開発・製造を行っています。ヘミセルロースは世界中で年間10億トン以上発生する未利用資源です。期間中は多くの原料の評価を行い、特にもみ殻には非常に多くのヘミセルロースが含まれていることが分かりました。今後は被覆肥料の被膜殻への活用に向けて、開発を進めていきたいと発表しました。

モバイルグリッパと東京ロボティクス㈱坂本代表

JA全農の伴走者の声

東京ロボティクスの伴走者
石原直樹さん（本所 財務部）

農業に一切関わったことのないスタートアップ企業の伴走者をすることは、気付きと学びが多い貴重な経験となりました。「JAグループ×スタートアップ企業」により、新たな価値が生まれることを実感しました。農業現場での人手作業は多種多様です。生きた現場の声に対し、的確に応えられる新たな技術が近い将来、活躍する日を期待しています。

地元カンパニーの伴走者
酒巻岳仁さん（宮城県本部 畜産部）

国産農畜産物で、消費者をワクワクさせる気持ち、また生産者へ喜びを伝える、そんな仕事をしていくべきだと改めて実感しました。現職場とは違った視点から販売へのアプローチを経験できたこと、さまざまな人脈が築けたことは人生の宝です。

EFポリマーの伴走者
吉政弘基さん（山形県本部 生産資材部）

「できる」を探しまわってあっという間に終わってしまった半年間でした。通常業務では経験できないスピード感や刺激を通して、成長を実感でき、さらに充実した日々を送ることができました。

当日の動画はこちらからご覧いただけます。

成果を発表した9社代表と農林中金・奥理事長（後ろ左）、全農・野口理事長（後ろ右）

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

JAアクセラレーター第3期

スタートアップ企業とJAグループが食と農、くらしの未来を共創

9社が成果発表

AgVenture Labは11月11日、「JAアクセラレーター第3期」の成果発表会（デモデイ）を開催しました。

【経営企画部】

第3期のアクセラレータープログラムは211件の応募から採択された、食・農・くらしに関わるさまざまな社会課題の解決を目指すスタートアップ企業9社をJAグループで集中的に支援していく取り組みです。採択された各企業には農林中央金庫と全農の職員が約半年間伴走者として寄り添い支援し、今回の発表会で成果を発表しました。

㈱Ciamo（シアモ）は「廃棄物で作る『光合成細菌』で持続可能な農業と水産養殖の実現」をテーマに、廃棄物となっている焼酎かすを利用した光合成細菌の培養キット「くまレッド」を開発、研究しています。光合成細菌を誰でも簡単に培養でき、また従来製品の5分の1のコストで安価に普及していくことを目指しています。プログラム期間中に約30の組織との面談を実施し、12カ所で実証実験を実施しました。

「くまレッド」の実証実験について発表する㈱Ciamoの古賀代表

㈱地元カンパニーは「ストーリーを流通させる『地元のギフト』」のテーマで、作り手や産地のストーリーを前面に出した、社会性のあるカード式のカタログギフトの製作・販売を行っています。JAグループと連携して掲載商品の増加、ギフト開発に取り組み、JAマインズ（東京都）農産物直売所の商品やJAタウン出品商品（東京都本部）のカード化が実現しました。

㈱エアロネクストは、ドローンを活用したさまざまなサービスの提供による低空域の経済化を目指しています。期間中には複数の自治体と、ドローンと陸送を組み合わせた新しい物流インフラの構築に取り組み、また日本初のドローンと貨客混載を組み合わせたリレー配送を実施しま

JA ズームイン

人と自然の未来を育む くらし作りを目指して

農産物直売所「グリーン・マルシェ」

JA越谷市は埼玉県の南東部に位置しており、東京都心まで25㎞圏内の都市型JAです。管内には四つの川が流れ、古くから稲作を中心に農業が営まれています。

2008年に〝あなたの隣が産地です〟をキャッチフレーズに、地産地消の推進拠点となる農産物直売所「グリーン・マルシェ」を開店し、販売拡大を進めています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、JAふれあい祭り、産業フェスティバルなどのイベントの中止が相次ぐ中、「グリーン・マルシェ」では農協観光と協力し、旅行気分が味わえる北海道フェア、沖縄フェアを行いました。

生産者とこども食堂の懸け橋

2019年から地域貢献活動として、「グリーン・マルシェ」出荷者へこども食堂への支援を呼び掛けています。規格外の農産物を子どもたちへ届けることで食材ロスを減らし、「もったいない」を「ありがとう」に変えていこうという懸け橋の役割を行っています。心のこもった新鮮な野菜を食べた子どもたちからのお礼の手紙の中には、苦手な野菜を克服できたとのうれしい声もあり、食材を提供する生産者の励みとなっています。

こども食堂へ食材を提供

また、同JAでは、越谷子育て応援フードパントリーへ「越谷ふるさと米」を毎年300kgを寄贈し、地域貢献を続けています。農業所得の増大と地域の活性化を目指して作られた「越谷ふるさと米」は、農薬の使用を抑え、あぜなどに除草剤を使わない、環境に配慮したこだわりの米です。

フードパントリーへ「越谷ふるさと米」300kg贈呈

合格祈願米で受験生を応援

受験シーズン前には、縁起物として合格祈願米を販売しています。自然と体にやさしい合格祈願米を食べて受験を乗り切れるよう、地元の寺院で環境保全米「越谷ふるさと米」に祈願を行っています。食を通して受験生を応援するとともに「越谷ふるさと米」のPRを行い、販売拡大につなげています。

「越谷ふるさと米」で受験生を応援

JA越谷市（埼玉県）

概要	令和3年3月31日現在
正組合員数	3255人
准組合員数	5133人
職員数	94人
販売品取扱高	6億7千万円
購買品取扱高	7億8千万円
貯金残高	1043億0千万円
長期共済保有高	1996億1千万円
主な農産物	米、イチゴ、ネギ、クワイ、小松菜

JAズームイン

組合員目線で地域の活性化と発展を目指す

JA山田村（富山県）

概要	令和3年2月末現在
正組合員数	342人
准組合員数	67人
職員数	15人
販売品取扱高	1億2千万円
購買品取扱高	2億7千万円
貯金残高	48億2千万円
長期共済保有高	80億9千万円
主な農産物	米、ニラ、リンゴ

JA山田村が事業エリアとする富山市山田地域。山田村とは、富山県中部の婦負郡に存在した村で、2005年4月に7市町村が合併し、現在は富山市となっています。豪雪地帯のため、主要産業は水稲中心の農業と林業でしたが、農業用地開発事業で畑を造成し、中山間地の気候を生かした夏ダイコンの産地育成や、菓子メーカーとのジャガイモの契約栽培にも取り組んだ時期がありました。

1月から花を咲かせる啓翁桜

しかし、農業就業者の高齢化や核家族化の影響で農業者の減少が急速に進み、その対応に向けた取り組みが課題となっています。

気候条件を生かした数々の特産品「啓翁桜」「リンゴ」「米」「エゴマ」

同JAでは、牛岳高原の肥沃な土と高地という特性を生かした特産品の栽培に力を入れています。当地域は富山県内でも「知る人ぞ知る」特産品の宝庫です。

収穫予定の桜圃場を巡回

中でも「啓翁桜」は名高く、秋の訪れが早い標高300～400mの栽培地では、枝が十分に伸びきらないうちに休眠期を迎えるため、花芽の間隔が狭く、花ぞろいの良い枝に仕上がるという特長があります。北陸一の産地でもあり、山田村花木生産組合長・石崎貞夫さんは「米やソバと収穫時期が重ならないため、農閑期の『冬の仕事』にもうってつけです。花はおしゃれで、ある意味、若い農家さんに向いています。新規就農の移住者が来てくれたら良いのですが」と若い後継者に期待をかけます。

6次産業化・食育事業で地域の活性化

富山市との連携事業である「エゴマの6次産業化」では、13年からJAを中心に露地での試験栽培に取り組み、市が栽培助成も実施するなど、徐々に栽培面積が増えています。また、「リンゴ園」において小中学生を対象にした農業・食育事業を展開するなど、幼少期から農業への理解を深める活動を行っています。

組合員目線での事業展開

組合員の高齢化による利便性を考え、同JAの事務所・売店を1階に集中し、売店をコンビニ（Yショップ）化することを決定し、2019年11月にリニューアルオープンしました。

リニューアルオープンの式典であいさつする若林正幸代表理事組合長

市町村合併後、少なからず地域が寂れていくなか、小さなJAが生き残ってきたのも「組合員をはじめ地域の皆さんが、JAを守り、より所にするという意識のたまものだ」と、若林正幸組合長は感謝を忘れません。これからも地域社会の持続と発展のため「食と農業を基軸として、地域に根差した協同組合」を目指していきます。

SCHOOL OF LOCK! TOKYO FM JFN 38 STATIONS 22:00-23:35 スクール オブ ロック!
JA全農提供FM番組（TOKYO FM／JFN38局）毎週木曜日23:00～23:06
全農の食の応援団「虹のコンキスタドール」が農業部の部員となり
食と農の魅力を発信します!

「梅酒の梅ドライフルーツ」新発売
漬け終わった梅の実を使用

12 つくる責任 つかう責任

全農は、梅酒を製造した後の梅の実を一口サイズにカットし、糖漬けした「和歌山県産 南高梅使用 梅酒の梅ドライフルーツ」を発売しました。【営業開発部】

酒造メーカーでは、梅酒を製造する際に、大量の青梅を使用しています。漬け込んだ青梅は、営業用として得意先に提供したり、飼料用として販売したりしていますが、それでも残ってしまった場合は、コストをかけて廃棄処分しています。

この「梅酒の梅ドライフルーツ」は、広島県の大手酒造メーカーが高級梅酒の原料として使用した和歌山県産南高梅を、産地であるJA紀南が買い取り、ドライフルーツに仕上げた商品です。梅酒梅の風味を引き立たせ、やさしい口当たりの酸味に仕上げた、今までにないアルコール風味のドライフルーツです。

原料の循環を実現し、新たな付加価値を創造した、SDGs（12. つくる責任 つかう責任）にも合致する取り組みです。ニッポンエールは、今後も商品を通して産地を応援していきます。

甘くてしっとり。甘柿といえば「富有柿」

全農直営飲食店舗で福岡県産「富有柿」フェアを開催

全農は直営飲食店舗（3店舗）で11月22日～12月5日の間、福岡県産「富有柿（ふゆう）」フェアを開催します。【福岡県本部・フードマーケット事業部】

福岡県では、西南暖地という冬場でも日照量豊富な気候条件を生かし、9月から12月にわたり「西村早生」「早秋（そうしゅう）」「太秋（たいしゅう）」「秋王」「早生富有」「富有」など、さまざまな品種の柿を生産、出荷しています。

今回のフェアでは、収穫最盛期を迎える「富有柿」をふんだんに使用したパフェやタルト、フルーツサンドやスムージーなどの特別メニューを提供します。

晩秋を代表する果物として地元ではなじみの深い「富有柿」。上品な甘みとしっとりとした食感の果肉を生かした自慢のスイーツメニューをぜひご賞味ください。

「富有柿」はJA全農が運営する産地直送通販サイト「JAタウン」で購入できます。
https://www.ja-town.com/shop/c/c10000286/

実施店舗
みのりカフェアミュプラザ博多店
みのりカフェ福岡パルコ店
みのりカフェ三越銀座店

詳細はhttps://minoriminoru.jp/shop/をご覧ください

JA全農のインターネットショッピングモール
JAタウン ショップ紹介

いわて純情館

「冬恋（はるか）」は、岩手県生まれのリンゴ「はるか」を一つ一つ光センサー選果機で選別し、糖度や蜜入り指数、見た目の基準をクリアしたものだけを選別したブランドリンゴです。リンゴのスペシャリストたちが研究会を立ち上げ、卓越した栽培技術を駆使し育て上げました。

鮮やかな黄色の果実は、岩手の寒さで鍛え抜かれた歯ごたえのある食感です。凝縮された蜜と甘さのハーモニーが楽しめます。岩手が誇るリンゴの最高峰を、ぜひご賞味ください。

いわて純情冬恋(はるか) 約2.5kg 9～12玉
……5000円（税込み）

ご注文はこちらから

▶ JAタウンはこちらから https://www.ja-town.com
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

発行／全国農業協同組合連合会 2021年（令和3年）11月22日 発行（毎週月曜日発行）
第3376号 編集・発行人／広報・調査部 新妻成一
〒100－6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号JAビル TEL03（6271）8055

休刊のお知らせ
11月29日号は休刊いたします。
次は12月6日号です。

私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。